

◎たまちゃんが自分で「人体実験」して発見してしまつたという「幸せに生きるためのたった一つの法則」とは…。表面を読んでいただけ、もうお分かりですよ。それは簡単で誰にでもできること。それは…、

『だれかに、笑顔のプレゼントをする』こと。

たまちゃんは、三つのことを徹底して続けて、その法則にたどりついたのです。

① 『笑顔』

② 『ありがとう』

③ 『プレゼント』

☆給料のほとんどを筆文字カードや小冊子などのプレゼントに使っていたという、仕事を辞めるまでの最後の二年間について「二年間ね、自分の年収以上のプレゼントは出来ません。どんなに頑張っても。私がプレゼントした総額、まあ、だいたい七、八百万円くらい、もうこの時点で大バカタレでしょ、もうね。でもね、どうなったか。ついたら、こんなおかしなことやってる奴に一目会いたいってね、まだ会つたこともないのに、北海道に来て、東京に来て、岩手県に来て、福岡県に来てとか、全国から「来て下さい、来て下さい」ってね。私の話を聴きに來たり、筆文字を習いに來たりするおかしな人たちがね、全国に何万人も出てきたんですよ。でもね、その人たちにプレゼントしたかつて言つたら、プレゼントしてない。プレゼントした人からとは全然違う、どつかとんでもないところから、ポコッと返って來るわけです。それをね、経済効果って観点からね、合計額を計算したらね、三十二億円やつたんです。ほいだらね、お金の使い方が、はっきり分かつたんですよ。「なんだこれ、お金ってね、人のために使やええんや」って思つたんですよ。」

いかがでしょうか。たまちゃんは、実は人を笑顔にするのは、あまりお金をかけなくても出来るとも言っています。知恵を絞ればたくさんあります。何より大切なのは信じてとにかく続ける『凡事徹底』です。

さて、最後にこの素晴らしい「たまちゃん小冊子」販売のお知らせです。

◆1冊300円

(税込み・送料別・10冊以上送料無料)

◆申込・問合せ

たまちゃんファミリー島根支部

大島健作(健ちゃん)

詳細はサイトに

『大島建材店 たまちゃん』で検索。

※当社「ひらほく」に6冊あります！

先着で販売、お届けいたします。



『八田興一と台湾農業』

皆さんはかつて甲子園に、台湾代表が出場したことを知っていますか。

台湾で歴史的な大ヒットの感動巨編が日本凱旋上陸、限定公開されてきた『KANNO 1931海の向こうの甲子園』という映画がとにかく凄いです。

本年2月23日付読売新聞のコラム「編集手帳」でも次のように紹介されていました。

『KANNO』という題名に関心を引かれた方も多いただろう。日本統治時代の台湾から1931年に甲子園初出場を果たした、「嘉義農林(かぎのうりん) 学校野球部」の実話に基づく台湾の長編映画だ。日本人、台湾人(漢人)、台湾先住民で作る弱小チームが成長し、勝ち進む物語は見る者の心を揺さぶる。

映画には日本人土木技師、八田興一(はつたよいち)が登場する。台湾南部でダム建設と用水路整備の大事業を行い、今も台湾で尊敬される人物だ。

「八田の話を入れなければ、もっと短くなつたのでは」。

先月の都内での試写会で会場から質問が飛んだ。出席したマー・ジーシアン監督の答えが興味深かった。

「八田さんと台湾農業は切っても切れない。」

野球も土農と密接だ。

嘉農と八田さんはあまり関係ないが、

「梅と桜」(二つの筋立て)が

同時に満開になる年は

どんなに美しいだろうと思つた。

いくら長くなつても

八田さんの部分は切らない」。

事情は異なるが、相手国・地域の発展に貢献し、長く感謝される支援は日本の理想だろう。政府は今月決めた大綱で、開発協力を「未来への投資」と意義づけた。お手下本になる先人がいる。

4年前の東日本大震災以降、世界中から温かい支援が届けられましたが、数字の上で最大の支援を送ってくれたのは、台湾。日本赤十字が把握しているだけで、義援金は二百億円以上。台湾は、人口約二千三百万人(日本の約1/5)、震災当時の平均年収が約160万円というなかで、この支援がどれほど破格なものがわかります。

そして、2011年暮れに台湾の新聞社が行つた「あなたにとって今年一番の幸せは？」というアンケートで、台湾の方々が1位に選んでくれた答えは、「日本への義援金が世界一になったこと」でした。日本の統治時代に受けた恩恵をどれだけ大切に思い、語り継いできたのか。台湾の方々の心に今なお深く生きる「日本精神(リップンチェンシン)」、本当に素晴らしいです。

これまで書籍など何度かご紹介してきました。博多の歴女こと、白駒妃登美さんがこの映画を絶賛、次のように伝えてくれています。

すべての日本人に知ってほしい。かつて日本と台湾が手を携え、遙かなるものを求めて、ともに歩んだ歴史があつた、ということ。1931年、日本統治下の台湾。それまで1勝もしたことがないKANNOと嘉義農林学校が、日本人監督に率いられ、

夢の甲子園に向かつて行く!

足の速い台湾の原住民族、打撃が素晴らしい漢民族、そして守備に長けた日本人の3つの民族の混成チーム「KANNO」が、甲子園に大旋風を巻き起こした実話をもとに、この映画は制作され、台湾映画史上、空前の大ヒットとなりました。

仲間を信じることの大切さと美しさ、目の前の課題にひたむきに向き合うこと、さらに最後まで絶対にあきらめない気持ち。人生で大切なことが、すべてこの映画には詰まっています。

野球のシーンも素晴らしいですが、当時東洋一の規模を誇つた烏山頭(うさんとう)ダムの完成という歴史的事実を絡め、日本統治時代の台湾の一面を見事に描ききつた原作者の手法に、脱帽しました!

ここまで知つて、絶対に観ないわけにはいかないと、2月末、数少ない上映館に出掛け、映画『KANNO』を観てきました。まさに、「人生で学ばべきことがすべて込められている」という最幸の内容。想像をはるかに越える感動に、3時間を超える長編ですが、ずっと釘付け、教え・学び満載の数多い見所に何度も何度も涙しました。もう上映館は限られています。これからあらためてという施設もあります。ぜひ、公式ページにてお調べ下さい。

実は、神奈川のお近くで上映予定が入りました。昨年オープンした本厚木の施設、「アミューあつぎ」の「映画ドットコムシネマ」にて、4/25(5/8)です。高校野球の興味の有無に限らず、ぜひ一人でも多くの方に観ていただきたい、超オススメですよ。

『母への恩返し』

チームを3回日本一に導き、四百本塁打、二千本安打を達成後、19年間の現役生活を終えた元福岡ソフトバンクホークス選手、小久保裕紀氏の次の大舞台は「侍ジャパン監督」。

月間「致知」で作家の神渡良平氏と対談された内容は、華々しい活躍や好成绩の陰に、数々の苦境を乗り越え、人生の道を自

らの手で拓かれた体験が紹介されており、思わず胸に込み上げてくる感動がありました。その内容とは…

【神渡】

小久保さんが二千本安打を達成された時、記念の名球会プレーザーを着せていただいたのが、恩師の王ソフトバンクホークス球団会長でした。感慨も一入だったでしょう。

【小久保】

実はこの日、僕にとつてもう一つ嬉しいことがありました。授与式は7月14日でしたが、母親が社内旅行で福岡に來る日と、偶然重なつていたので。夜、9時の便で着くというから、僕は母親に何かをお願いしたことはなかったけど唯一この時だけは、「せっかくなから夕方5時くらいに福岡に着く便に変更して来てくれへん。僕が王会長にプレーザーを着せてもらえるのを生で見よう」と頼みました。

母はホークス球団の配慮でグラウンドの中で授与式の様子を見せてもらったのですが、30メートルくらい先から泣きながら歩いてくる母親の姿を見た時に、これ以上の恩返しはちょっとないな、初めて親孝行できたなと思つて…

小学校1年生の時、野球の厳しい練習が嫌で「野球をやめる」と言つて泣きながら柱にしがみついていた時、お母さんにグラウンドまで引つ張つて行かれた。

その時「勝手に離婚したくせに、押しつけて野球させて。嫌な野球をこれ以上させるんだつたら、いまから俺を親父の実家に連れて帰れ」という暴言を吐いた時でも、一瞬怯んだ母の顔を今でも覚えています。それでも「男なら一度決めたことは、最後までやり通しなさい」と言いながら、自転車の後ろに乗せて連れて行ってくれたおかげで今の僕があると思っています。

「致知」2013年3月号「生きる」より

『親孝行したい時には親はなし』といひます。ご健在の方は、ぜひできる時にできることを。そして、すでに亡くされた方は、「おかげさま」の心を出逢つた目の前の人に『恩送り』していきましよう。